# 働く女性の健康増進調査 2018 結果一覧

■ **女性に関するヘルスリテラシーの高さが、仕事のパフォーマンスの高さに関連**

| | 結果 | 参照先 | |
|---|---|---|---|
| 1 | ヘルスリテラシーの高い人の方が、**仕事のパフォーマンスが高い** | p.10 | 図 6 |
| 2 | PMS（月経前症候群）や月経随伴症状によって、元気なときと比較して仕事の**パフォーマンスが半分以下になる人が 45%** | p.9 | 図 4 |
| 3 | ヘルスリテラシーが高い人の方が、PMS（月経前症候群）や月経随伴症状によって、**仕事のパフォーマンスが下がる割合が低かった** | p.10 | 図 7 |
| 4 | 更年期症状や更年期障害によって、元気な状態のときと比較して**仕事のパフォーマンスが半分以下になる人が 46%** | p.9 | 図 5 |
| 5 | ヘルスリテラシーが高い人の方が、更年期症状や更年期障害によって、**仕事のパフォーマンスが下がる割合が低かった** | p.11 | 図 8 |

■ **女性に関するヘルスリテラシーの高さが、望んだ時期に妊娠することや不妊治療の機会を失することがなかったことに関連**

| | 結果 | 参照先 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 妊娠を希望した人たちのうち、**望んだ時期に妊娠できなかった人が約 53%** | p.13 | 図 11 |
| 2 | ヘルスリテラシーが高い人の方が、**約 1.9 倍、望んだ時期に妊娠していた** | p.14 | 図 12 |
| 3 | 望んだ時期に妊娠するためにあれば良いと思うもの<br>**① 時間有給休暇等、有給休暇を取りやすい職場の雰囲気 57%**<br>② 検診や受診のための有給休暇制度（時間有給等）の柔軟性 約 43%<br>③ 育児休暇後に復帰しやすい職場の雰囲気 約 38％<br>④ 妊娠に適した時期や妊娠する力に関する学校での授業 約 34％<br>⑤ 妊娠・出産の希望も含めてライフプランを考える学校での授業 約 23％ | p.15 | 図 14 |
| 4 | 望んだ時期に妊娠することができなかった人のうち、**不妊治療を始めた人は約 23%** | p15 | 図 15 |
| 5 | 望んだ時期に妊娠ができなかった時に、ヘルスリテラシーの高い人の方が、**約 1.8 倍、不妊治療をしていた** | p.16 | 図 16 |
| 6 | 望んだ時期に妊娠ができなかった時に不妊治療を始めなかった理由<br>**① 治療にかかる費用の負担 約 29%**<br>② 仕事と治療の両立が困難だから 約 21% | p.17 | 図 18 |
| 7 | 不妊治療が必要となった理由<br>**① 仕事との兼ね合いで妊娠のタイミングを逃してしまったから 約 28%**<br>② 不妊治療が必要な人はまれだと思っていたから 約 26% | p.18 | 図 19 |

■　**女性に関するヘルスリテラシーの高い人は、女性特有の症状があった時に対処できる割合が高い**

【月経異常】

| | 結果 | 参照先 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 現在または過去に**月経に関する異常症状があった人が約 50%** | p.20 | 図 21 |
| 2 | 月経に関する異常症状があった際の対処について**、何もしていない人が約 45%** | p.20 | 図 22 |
| 3 | 月経に関する異常症状が出てから、**4 か月以上経ってから婦人科・産婦人科を受診した人が約 53%** | p.21 | 図 23 |
| 4 | ヘルスリテラシーの高い人の方が、**月経異常時に約 2.8 倍、市販薬や処方薬を飲む、医療機関を受診する等の対処行動をしていた** | p.21 | 図 24 |

【PMS（月経前症候群）】

| | 結果 | 参照先 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 現在または過去に **PMS の症状があった人が 66%** | p.22 | 図 25 |
| 2 | PMS に対する対処について、**何もしていない人が 63%** | p.22 | 図 26 |
| 3 | PMS の症状が出てから、**4 か月以上経った後に婦人科・産婦人科を受診した人が約 51%** | p.23 | 図 27 |
| 4 | ヘルスリテラシーの高い人の方が、**PMS 時に約 1.9 倍、市販薬や処方薬を飲む、医療機関を受診する等の対処行動をしていた** | p.23 | 図 28 |

【更年期症状や更年期障害】

| | 結果 | 参照先 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 現在または過去に**更年期症状や更年期障害があった人が約 42%** | p.24 | 図 29 |
| 2 | 更年期症状や更年期障害への対処について、**何もしていない人が約 64%** | p.24 | 図 30 |
| 3 | 更年期症状や更年期障害が出てから **4 か月以上経った後に婦人科・産婦人科受診した人が約 63%** | p.25 | 図 31 |
| 4 | ヘルスリテラシーの高い人の方が、更年期症状や更年期障害のある時に**約 1.9 倍、市販薬や処方薬を飲む、医療機関を受診する等の対処行動をしていた** | p.25 | 図 32 |

【婦人科・産婦人科の受診および健康管理やセルフケア】

| | 結果 | 参照先 | |
|---|---|---|---|
| 1 | ヘルスリテラシーの高い人の方が、**約 2.2 倍、婦人科・産婦人科を定期的に受診していた** | p.26 | 図 33 |
| 2 | ヘルスリテラシーの高い人が、女性の健康に関する健康管理のために実施していること<br>**①　婦人科系のがん検診に行っている（乳がんや子宮頸がん等）　約 50%**<br>②　婦人科に関することで気になる症状（不正出血や月経時の異常等）があった時はすぐに婦人科・産婦人科を受診するようにしている 約 22% | p.27 | 図 34 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ③　望まない妊娠を避けるためにコンドームやピルを使用して避妊をしている 約 22% | | |
| 3 | ヘルスリテラシーの低い人は、女性の健康管理のために「**特にしていることはない**」**が約 55%**で、最も多い回答だった | p.27 | 図 34 |

■　**女性に多い病気のしくみや予防・検診・治療方法、医療機関へ行くべき症状を学ぶニーズが高い**

| | 結果 | 参照先 | |
|---|---|---|---|
| 1 | これまでに受けた性や女性の健康に関する教育のうち、学校でもっと詳しく聞いておきたかった内容<br>**①　女性に多い病気のしくみや予防・検診・治療の方法 約 49%**<br>②　どのような症状の時に医療機関へ行くべきか」 約 41% | p.30 | 図 39 |

■　**企業の健康診断が、定期的な婦人科・産婦人科の受診に貢献**

| | 結果 | 参照先 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 初めて婦人科・産婦人科を受診した理由として、<br>**①　症状があったから約 45%**<br>②　乳がんや子宮がん等のがん検診約 26%<br>③　自分の身体の状態を知るため約 20% | p.35 | 図 47 |
| 2 | **定期的な婦人科・産婦人科の受診については、約 68%が未受診** | p.35 | 図 48 |
| 3 | 定期的に婦人科・産婦人科を受診するきっかけとなった情報源<br>**①　会社の健康診断で定期受診を勧められた 約 22%**<br>②　婦人科・産婦人科を受診した時に医師から定期受診を勧められた約 20% | p.36 | 図 49 |
| 4 | **婦人科･産婦人科に行くべきだと思ったが､行かなかったことがある人 約 37%** | p.37 | 図 50 |
| 5 | 婦人科・産婦人科に行くべきだったが行かなかった理由として、<br>**①　症状はあるが、自分の症状は重大な病気ではないと思った約 56%** | p.37 | 図 51 |

■　**その他のポイント**

| | 結果 | 参照先 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 何があれば、あるいは何が変われば婦人科・産婦人科をより受診したいか<br>**①　インターネットから医療機関の予約ができる 約 48%**<br>②　治療費の補助 約 40%<br>③　女性医師の診察 約 38%<br>④　医師の親身な対応 約 37% | p.38 | 図 52 |
| 2 | 望まない妊娠を避けるために必要なこと<br>**①　女性への具体的な避妊方法に関する学校での授業 約 70%**<br>②　男性への具体的な避妊方法に関する学校での授業 約 66%<br>③　アフターピルが薬局等でも購入できるしくみ 約 41% | p.39 | 図 53 |